

東田川文化記念館 利活用計画策定委員会

計画策定の目的

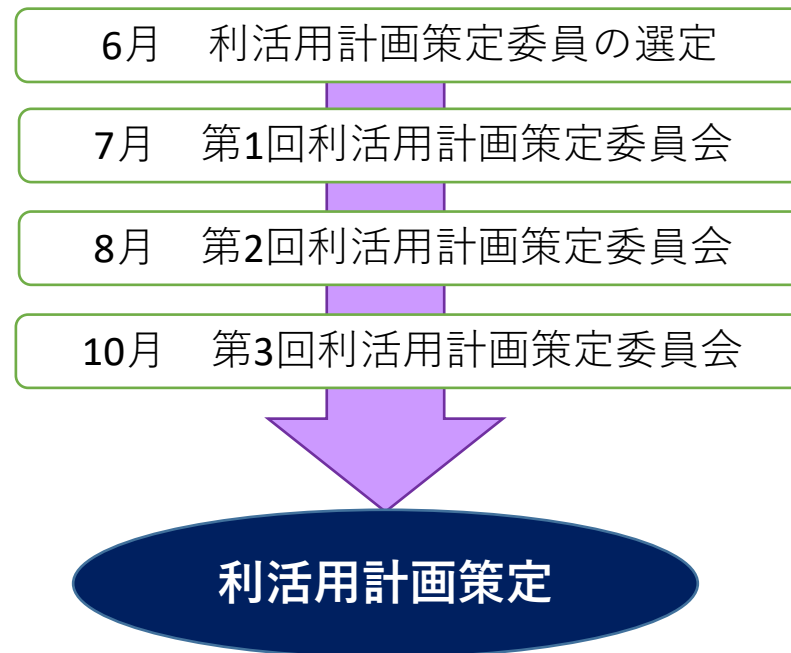
平成8年の東田川文化記念館の開館に先立ち、平成6年度に「旧東田川郡役所等活用計画」を策定し、同計画に沿って館内を整備、開館後も計画に基づき地域の歴史や文化を紹介する施設、また各種講座や展示会・コンサートの開催など文化活動の場として地域の生涯学習の一端を担ってきました。

当初策定から約30年経過し、平成27年には隣接地に藤島歴史公園「Hisu花」が整備され、時代の変化に伴い計画を見直す必要があることから、今後の活用について今一度文化財としての歴史的価値の理解を深め、利用しやすい施設整備を進め地域のシンボルとして地域住民が効果的に活用していくことができるよう、地域の意見を反映させた利活用・運営体制等の基本方針を示すことを目的とします。

策定委員

各分野の専門の方々、東田川文化記念館利用者、令和3・4年度に開催したワークショップ参加者、公募による選定。事務局は、主体の藤島庁舎総務企画課、東田川文化記念館(指定管理者)、藤島庁舎産業建設課(歴史公園との連携)、教育委員会社会教育課(文化財)で構成。

スケジュール



「旧東田川郡役所等活用計画」（平成6年策定）

●基本方針

・施設機能の複合化により魅力を増進する

展示機能、体験学習機能、地域住民のための文化、学習活用の発表の場、ホール機能、図書館との複合化、複数の施設を総合的に整備。

・展示機能を充実し、集客性を重視する

歴史的建造物としての建物そのものを観てもらい内外の展示機能を最大限充実

・地域文化の演出で個性化を図る

他に類を見ない郡役所、郡会議事堂等の歴史的建造物を中核とする施設であるという特色を最大限に生かしたテーマ設定をし演出

・情報伝達とともに五感で実感

展示装置単体での整備から、空間及び環境そのものに演出性をもたせ整備



現状の把握・地域の意見（WS）の反映による

見直し

「東田川文化記念館利活用計画」（令和5年）

●利活用の基本方針

・
・
・

⇒ 具体的な施策を示す

東田川文化記念館利活用ワークショップ（令和3・4年度）

藤島地域の方々を中心としたワークショップを令和3年度・4年度の2年間で計5回開催しました。
有識者の講義を聴講し、記念館の現状と課題を浮き彫りにし、今後の活用について広くアイデアを集める意見交換を行いました。

WSテーマ：「地域の人々が足を運びたくなるような施設を目指して」

回数	開催月日	テーマ	講師	参加者
第1回	令和3年 11月20日（土）	歴史公園の魅力アップで記念館の来訪者を増やす	温井 亨 （東北公益文科大学教授）	18名
第2回	令和3年 12月11日（土）	東田川文化記念館周辺の山と川と花と文化財の再認識	植松 芳平 （鶴岡市文化財保護審議会委員長）	17名
第3回	令和4年 3月12日（土）	観光の視点から記念館の価値について	小林 好雄 （出羽庄内地域デザイン代表取締役）	17名
第4回	令和4年 4月16日（土）	学芸員の視点から今後の展示のあり方について	本間 豊 （公益財団法人致道博物館学芸部長）	16名
第5回	令和4年 5月21日（土）	利活用計画に対する意見のまとめについて	温井 亨 （東北公益文科大学教授）	19名



講師講義

館内現況視察



グループごと意見交換

グループ発表



東田川文化記念館利活用ワークショップ意見（令和3・4年度）

現状と課題

各回のワークショップ出された意見を6つのテーマに分類し現状と課題、次ページにそれに対する解決策としてまとめました。

分野	現状と課題
展示	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の目玉や見どころ、テーマの設定を明確にする ・展示の内容を理解してもらいより分かりやすい説明、 ・展示方法の工夫が必要 ・展観順路を明確にし導線を表した方がよい ・明治時代のことならここが一番と感じさせたい ・近隣の水田試験場との関係性を展示した方がよい ・展示内容の発信が必要（何を展示しているのか） ・郡役所／電気事業組合の展示説明の工夫と発信が必要 ・展示を伝えるターゲットを想定する
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が弱い ・記念館の魅力・価値をどのような手段で伝えるのが有効か ・入館者増となるような情報発信、集客方法の工夫が必要 ・ターゲットを誰に向けて発信した方がよいか
案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・国道に「Hisu花」案内看板がない ・歴史公園内に鉄塔が残っている理由が明示されていない ・歴史公園内ではどこから記念館へ入れるのか分からない ・歴史公園内では記念館で行われているイベントが分からない
休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェなどの休憩スペースがない ・憩いの場として活用するにはどうしたらよいか ・ベンチが少ない ・旧東田川郡役所の周りを散策しにくい
近隣の 藤島歴史公園 「Hisu花」	<ul style="list-style-type: none"> ・大堰に水が流れていない ・池の周囲が危険 ・藤の景観が平面的で高さが低い ・藤の開花時期が終わると花がない ・園路が決まっていて芝に入りにくい ・防除シートに落ち葉や雑草が生えている ・草が伸び放題になっている ・Hisu花ゲートがない ・築山が利用されていない
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史公園との連携活用 ・女性を集客するための連携事業が必要 ・記念館～歴史公園の水の流れを人の流れにつなげる ・ターゲットを絞った連携事業 ・若い人を呼び込むための連携事業

東田川文化記念館利活用ワークショップ意見（令和3・4年度）

解決策

分野	解決策
展示	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の目玉を設定する ・展示順路（導線）を明確に表示する ・農業の発展の原点、郡政と近代農業の始まりが分かるように ・総合的な年表（国内、県内、藤島地域）の掲示 ・小学生向けにクイズ形式を取り入れ、理解を深めてもらう ・常設展示と企画展示を明文化しストーリー性を持たせた展示が必要 ・説明やガイドに工夫を。学芸員の専門的なアドバイスが必要 ・小学校向けに校外学習 クイズ・QRコードで発信 ・郡役所の復元時イメージをVRで紹介する ・東北電力鉄塔、農業試験場など周辺の関連施設を紹介する
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館周辺の四季をSNSを通じて分かりやすく ・魅力・価値をターゲット層に合わせて発信する ・来館者からの発信を促す（SNS） ・歴史好きな「歴女」を招待して発信してもらう ・インスタ映えポイントの明示
案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内に記念館への導線表示、イベント案内表示を設置 ・公園内の鉄塔の説明表示
休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・館内にスイーツカフェ、アーチストサロン、地域の特産物が提供できるレストランを設置 ・後方の池を整備し、中庭や八重桜下にベンチ、パラソルチェア、ソファを設置
近隣の 藤島歴史公園 「Hisu花」	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館につながる園路の整備 ・専門業者が公園全体の造園管理をし、指導のもと、庄内特有の樹木や花を植える ・藤の花を立体的に見せる工夫をする ・公園内にベンチ、東屋を設置する ・公園内にいづみやのようなカフェを設置する
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史公園と連携し魅力あるイベントを効果的に実施する ・特産物、お土産の販売 ・郡長室で抹茶カフェ、茶会を開催 ・明治ホールでワンドリンクコンサート ・若い人が魅力を感じるコンサートの開催 ・展示専門の学芸員の配置をする（委託） ・因幡堰土地改良区と調整し水利の利用で歴史を伝える ・水田農業試験場と連携し米作りの歴史関連イベントを開催 ・東北電力と連携し鉄塔、電力のしくみ、電気事業組合の歴史を学ぶ